

登録コード:MH1A2300 開講年度:2026		授業科目区分	助産師コース 必修
科目名	助産診断・技術学 (妊娠期)【22M～24M】 Diagnostics and Technics in Midwifery		
担当教員	芳賀 亜紀子 他 中込 さと子・徳武 千足		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/3年 不定期 集中・不定期		
単位数、講義室	1単位	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	授業の達成目標	
	MH22カリ・保健		
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	妊娠期の女性および家族に生じる現象を分析し、健康問題を解決するための妊婦への支援を理解する。	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	助産師として、妊婦の特性に応じた知識・技術・態度を獲得し、活用できるようになる。	
	MH23カリ・保健・看護		
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	助産師として、妊娠期の女性および家族に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	助産師として、妊娠期の女性および家族に関する多様な課題に対して、地域・国際的な視点を持ち、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく力を身につける。	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業は、助産師国家試験受験資格取得のための必須科目として開講します。 妊娠期における助産診断の特徴を理解し、助産実践に必要な基本的技術を習得します。 本授業は、男女共同参画に関する内容を含んでいます。 本授業は、2～3年次に学んだ母性看護学概論・健康論・方法論・母性看護学実習、3年次前期に学んだ助産学概論において獲得した知識を前提とし、3年次後期の「助産診断・技術学」、4年次前期の「助産診断・技術学」と連動して相補的に学んでいく科目になります。そして本授業の内容は4年次の助産学実習 における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の周産期医療における助産師としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	回(日付) 授業内容：リーディング課題(必携書下記参照) 第1-2回(6月23日、1限・2限)ガイダンス・妊娠期の助産診断： 1章、4-5章、 2章 女性のセルフマネジメント<レポートA・B課題提示>： 第3回(1月4日)小テスト、女性のセルフマネジメントについての課題共有 第4-8回(1月4日、5日)妊娠期の助産診断と助産ケア2-6(事例を用いたGW、発表)、授業アンケート： 2章、4-5章、 第9回(2月4日)期末試験 2月早期臨床体験の期間に、助産師外来の見学を1人1回予定しています。		
授業の進め方	授業は、指定のテキスト、スライドと配布資料に基づいて進めていきますが、能動学習による理解を深めるために事前学習を課します。また、演習およびグループワークも取り入れて授業を進めます。		
テキスト、教材、参考書	必携書 助産学講座第5巻 助産診断技術学、医学書院 助産学講座第6巻 助産診断技術学【1】妊娠期、医学書院 助産学講座第3巻 母子の健康科学、医学書院 助産学講座第2巻 基礎助産学【2】母子の基礎科学、医学書院 プリンシプル産科婦人科学2、メジカルビュー社 参考書 ・母性看護学で活用したテキスト ・助産学講座第4巻 基礎助産学【4】母子の心理・社会学、医学書院		
成績評価の方法	小テスト・期末試験・レポート・グループワークと発表の結果に基づいて、総合的に成績を評価します。 総合的評価の配分は、小テスト10%、期末試験50%、レポート20%、グループワークと発表20%とし、60%以上の得点を合格とします。 小テスト・期末試験は、妊娠期の基本的知識、助産診断およびケア、必要な助産技術の理解度を確認します。小テスト・期末試験の結果については、実施後にフィードバックします。 レポート課題A・Bは第1回目に提示します。		
成績評価の基準	小テスト・期末試験による成績評価の判定基準は、下記の通りとします。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可 小テスト・期末試験の場合、授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある		

成績評価の基準	」，応用問題が解ければ「やや上にある」，やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」，例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」と判定します。 レポートの場合、(i) 問題の設定が適切であり，(ii) その問題の背景を説明できており，(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており，(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており，(v) その上で自分の見解を提示できており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」と判定します。 (i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」，4項目までできていれば「やや上にある」，3項目までできていれば「水準にある」とします。 グループワークは参加の程度，内容については，レポートの評価基準と同様に判定します。
事前事後学習の内容	事前のリーディング課題を課します。授業計画の欄を参考にして下さい。 本授業の単位修得には、45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間15時間（2時間×7.5回）+自己学習時間30時間（4時間×7.5回）＝45時間（わかりやすくするため授業回数を7.5回で計算） *以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	講義や演習を通して自ら学ぶ姿勢を培って欲しい。質問や相談にはいつでも応じます。 質問への対応：芳賀亜紀子 akihaga@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時対応（事前にメール連絡すること） 保健学科中校舎3階